

## 【活動レポート】2/12 学生がワークショップをしました(府中国際交流サロン児童学習支援／学習支援サークルくりふ)

府中国際交流サロンでは、毎週金曜日に本学学生たちが「児童学習支援」の教室を開催しています。通ってきている子どもは、府中市内に住んでいる小中学生で、府中市主催、教室の企画運営はすべて本学学生に任されています。

2月12日に、本学学生が小学生向けにワークショップを開催しました。当日の様子を、学生がレポートしてくれました。

\*\*\*

### 《準備》

今回のワークショップ(WS)では、「どこにいるか」、「何色の服を着ているか」、「何をしているか」の三つのヒントを出し、絵の中の誰を指しているかを当てもらう「私の友達是谁でしょう？」ゲームをしました。

準備したものは、人物や場所が描かれた絵を3枚と単語、文のカードで、それぞれをコピーして使いました。

今回用意した場面は、駅、公園、スーパーです。例えば駅の絵では切符を買っている人や電車から降りている人を描き、服の色は単色にして、見てわかりやすいように工夫しました。



### 《当日の流れ》

このWSはグループで活動しました。

1. 年齢順に並び、前から1、2、3...と1グループ3~4人になるように分られました。当日は4グループでき、学生もそれぞれのグループに入りました。



2. ヒントで使う単語や文を書いたカードを配り、わからないものがないかグループごとに確認しました。

3. 初めに皆の前で口頭で「駅にいます」「水色の服を着ています」「切符を買っています」と言って、絵の中の当てはまる人を考えるというデモンストレーションをしました。

4. それぞれのグループで学生がヒントを出して子ども達に当ててもらいました。段々慣れてくると、問題を子ども同士で出し合ったり、紙にヒントを文で箇条書きにして書いたりしていました。





5. まとめとして何人かの子どもたちに皆の前で自分が作ったヒントを言ってもらい、皆で当てあっこをして終わりました。

(言語文化学部日本語専攻3年 須藤 楓)

#### 《企画をした学生の感想》

いろいろな子たちがいてやっぱり面白いなと思いました。最後の発表が予想以上に盛り上がって嬉しかったです。

学生にも、ある意味あんなんでもいいんだ、そんなに肩肘張らないで自分も楽しみながらやればいいんだ、と思ってもらえたら良いかなと。先輩っぽく言ってみました。皆さん一生懸命やられていたので大丈夫だと思います！(4年 佐々木史織)

今回のWSは普段あまり交流しない子たちとグループワークという形にしましたが、お互い楽しそうにやっていたというのが印象的で、やって良かったなと思います。このWSを通して私も学生も子どもたちの新しい一面を知れたと思うので、これからの活動のヒントにしていけたらいいですね。(3年 須藤 楓)

#### 《参加した学生の感想》

・参加した子たちがとても楽しそうにしている印象を受けました。時間的にも長すぎず短すぎずちょうどよかったと思います。(実施時間は40分程度)(2年 宮下優奈)

・普段交流がない子どもどうしても、楽しんで問題を出し合う姿が見られました。自分からすすんで難しいヒントを作れるように一生懸命考える様子を見て、今回のWSを今後の活動の参考にしたいと思いました。(1年 中村真子)

・普段は個人で勉強しているので、担当の学生と子ども1対1のマイペースな学習にとどまっていますが、WSで他の子と交流することができ適度な競争心も生まれ、子供たちのモチベーションが上がっていたのではないかと感じました。私たち学生も、そんな子どもたちの姿を見るのが嬉しく、WS自体を楽しめました。(1年 岩田紗知)

・今回のワークショップでは、普段はおとなしい子がみんなの前で発表したり、上級生の子が下級生に問題を出してあげたりと、子どもたちの新たな一面が見られたように感じられました。これからもこのようなゲームを通して、子ども同士の交流を深めていけたらいいと思います。(1年 荒木大岳)

・ワークショップでは、日本語レベルの高い子はよりクイズとして面白い説明を考えようと試行錯誤し、日本語レベルがまだそれほど高くない子は人物を説明する方法を楽しみながら学ぶことができてよかったと思います。

ワークショップの前に机を島にするなどの準備があれば、よりグループで協力したり、並べ替えカードなどを全員が平等に使うことができたので、次回からはそのような準備も必要だと感じました。(1年 岸野彩花)

日時: 2016年02月18日